



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム） （アメリカ、ユダヤ系米国人招へい第1陣）の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国よりユダヤ系米国人 15 名が、2017 年 1 月 8 日～15 日の 7 泊 8 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。省庁講義、歴史的建造物視察、伝統文化体験、学校交流等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて对外発信を行いました。

【参加国・人数】

アメリカ 15 名（AJC）

【訪問地】

東京都、京都府

2. 日程

- 1 月 8 日（日） 成田国際空港より入国
- 1 月 9 日（月） 【オリエンテーション】
【視察】浅草、東京江戸博物館、アメ横
- 1 月 10 日（火） 【講義】外務省北米局「日本の外交政策」
【講義】外務省中東第一課・第二課「日本・中東の関係」
【講義】一般社団法人日本経済団体連合会
【表敬訪問】米国大使館
【講義】国際交流基金
- 1 月 11 日（水） 【視察】最高裁判所
京都へ移動
【歴史的建造物】金閣寺
- 1 月 12 日（木） 【文化体験】扇子絵付体験
【文化体験】錦市場散策
【文化体験】座禅体験
【学校交流】同志社大学
東京へ移動
- 1 月 13 日（金） 【表敬訪問】イスラエル大使館
【学校交流】早稲田大学
【交流】日本ユダヤ教団（藺浦外務副大臣同席）
- 1 月 14 日（土） 【講義】樋口隆一氏
【講義】NPO 杉原千畝命のビザ
【歴史的建造物/ポップカルチャー】明治神宮、原宿

【視察】東京都庁展望台

1月15日（日）【歴史的建造物】皇居

【日本文化】茶道体験（八芳園）

成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

東京都



1/10【講義】国際交流基金（東京都）



1/13【学校交流】早稲田大学（東京都）



1/14【講義】杉原千畝命のビザ（東京都）



1/14【文化体験】茶道体験（東京都）

（地方プログラム）京都府



1/11【歴史的建造物】金閣寺（京都市）



1/12【文化体験】扇子絵付体験（京都市）

 1/12【文化体験】座禅体験（京都市）	 1/12【学校交流】同志社大学（京都市）
--	--

4. 参加者の感想

◆米国 大学生

このカケハシのプログラムは自分の人生で最も目を見張る経験でした。講義は良く組まれており、日本とユダヤという、愛する二つの文化の共通点について大変多くを学ぶことができました。杉原千畝氏と樋口氏の親族の方々からのお話はとてもおもしろく、彼らがどのようにユダヤの人々に影響を与えたかについて知ることができました。また、同志社大学の阿川教授から大変深い見識のお話を聞いたことは、素晴らしい経験でした。次に、同志社と早稲田の学生との交流は有意義でした。新しい友人を作ることでもでき、連絡を取り合ってまた日本で再会したいと思います。彼らはアメリカに自分を訪ねてくれるとも言っていました。日本人の若者と出会えたことは、とても楽しく最高の経験でした。最後に、そして最もお伝えしたいことは、日本の文化を探究できたことはまるで夢のようで、大変恵まれた機会だったということです。このカケハシプログラムでは京都への訪問は不可欠だと思います。私は、京都に到着した瞬間に、京都の町や歴史や人々の虜になりました。

他にはない大変特別な体験をすることができ、この機会を得たことに感謝します。

◆米国 社会人

美しい日本の国をご紹介いただき有難うございました。日本の文化について学び、おいしい食べ物を食べ、心動かされる人々に会ったということにどれだけ感謝しているか言葉では言い表せません。案内してくれた担当者は心優しく、知り合えて幸運でした。

特にこの一週間、日本について学べば学ぶほど、いかに知らないかを感じました。日本はとても神秘的で、幾重にも層をなす文化、歴史、伝統が互いに継ぎ目なく編みこまれています。日米関係とともにユダヤ人と日本人の関係は将来のアメリカ外交に希望を持たせてくれます。

外務省では日本が世界をどのように捉え、対処するかについての講義がとてもおもしろかったです。日本程他国との関係を尊重している国はありません。

このような貴重で思い出深い体験を与えてくださり有難うございます。近い将来また日本に来たいと思います。

◆米国 大学生

日本での一番の印象は、日本とアメリカの文化は互いに良いところを補っているということです。それぞれの国が異なる文化や伝統を持ち、互いの強みになっています。米国の弱みの多くは日本では実に強みとなっています。アメリカ人は個人主義を良しとしますがそれは時に協力を困難にすることもあります。日本の社会は共益を高く評価し、強いチームワークを可能にします。一方アメリカの個人主義は社会規範に挑んで革新を導きます。どちらの特性も良い面があり、協力することによってそれぞれの弱みを乗り越えることができます。加えて、安全保障の観点から、日米同盟の重要性について学びました。米国はアジアでの安定基盤を提供する日本との同盟から利益を得ています。紛争の激化を防ぐために米国と日本が互いにしっかりと団結するということが大切です。

また日本で同じ世代の学生と会う機会を得たことが楽しかったです。それによって日本の現代社会をより理解し、日本の人々との強い絆を結ぶことができるようになったからです。

5. 受入れ側の感想

●受入れ団体関係者

非常に熱心な方ばかりで感心しました。良い意見交換の場となり受入れ側にとっても良い機会となりました。

●国際関係専攻大学生

短い時間の交流でしたが、留学先となる大学の学生も参加していて、アメリカで再会する約束ができました。

●講義提供者

一生懸命メモを取りながら講義を聞いていてとても感心しました。彼らの今後の活躍がとても楽しみです。

6. 参加者の対外発信

ACCESS AJCさんが写真4枚を追加しました—Yotam Polzerさんと一緒に。 1月11日 · 🌐 Day 2 of the #KakehashiProject Mission to Japan featured a meeting with JSP Japan Israel Support Program to hear about their efforts during the 2011 Tohoku Tsunami, a meeting with the Japan Foundation 国際交流基金 to learn about the impact of 'soft power' and a meeting with the Ministry of Foreign Affairs of Japan to learn about the evolution and influence in Japan's foreign policy since WWII. 	ACCESS AJCさんが写真3枚を追加しました。 1月13日 · 🌐 Day 4 of #KakehashiProject mission to #Japan featured a discussion with Professor Naoyuki Agawa, distinguished visiting professor at Doshisha University who shared his perspective on the potential impacts of the new American Presidential administration on U.S.-Japan relations. 
プログラム 2 日目についての発信 外務省を訪問し、第二次世界大戦後の日本	プログラム 4 日目についての発信 同志社大学を訪問し、阿川教授とアメリカの

の外交政策の影響及び進化について学んだ。	政権交代における日米関係への影響について話し合いを行った。
----------------------	-------------------------------

7. 帰国後のアクション・プラン（※報告会実施なし）

（個人での取り組み）

- 1) ニューヨークの20代、30代のユダヤコミュニティメンバーに向け、夕食会を開催
- 2) 大学内や所属するクラブにて KAKEHASHI の経験についてプレゼンテーションを行う
- 3) The Dallas Morning News に KAKEHASHI の記事を掲載してもらうようアレンジする
- 4) 大学のユダヤ系学生に向け、日本の歴史や日本のユダヤコミュニティの重要性を議論する機会を作る
- 5) 日本語やアジア研究についてさらに学ぶ
- 6) D. C. のシンクタンクのメンバーに向け、サイバーセキュリティ分野における日伊関係についてブリーフィングを行う。
- 7) 今回交流した早稲田大学の学生との交流を引き続き行う。

（AJC での取り組み）

- 1) AJC の各施設に向け、KAKEHASHI で得た経験を発信する。
- 2) ニューヨーク、ロサンゼルス、シアトル、サンフランシスコの日本及びイスラエルの外交官などに向けブリーフィングを行う。
- 3) AJC Pacific Institute (API) メンバーに向けブリーフィングを行う。
- 4) AJC Asia Pacific Institute (API) のニュースレターに記事を掲載する。
- 5) API 関係者、Asia Society, RAND, US-JAPAN Council, Asian Pacific Islander Caucus に対して、ブリーフィングを行う。